

■自宅でも安心して医療行為が受けられます

患者さんは、寝たきり、脳卒中、がん末期、神経難病、認知症の方などさまざまです。自宅での医療を不安に思う方もいらっしゃいますが、薬の処方や痛みのコントロールだけでなく、胃ろう、在宅酸素、人工呼吸器等、ほとんどの医療行為を自宅で行うことができます。在宅医療の現場では、ご本人やご家族の希望に沿った医療や痛みを和らげるケアなどを行っています。

■在宅生活をチームで支えます

在宅医療を円滑に進めるためには、生活環境を支えることが重要です。そのため、私たち医師は、訪問看護師をはじめ、ケアマネジャー、ヘルパーなど、さまざまな人たちと情報を共有し、連携しながらチームで生活を支えています。

訪問看護師が寄り添います



すみれ訪問看護ステーション管理者
訪問看護認定看護師 森田 貞子さん

■その人らしい生活を大切に支援します

「訪問看護は何をしてくれますか?」とよく聞かれます。

病気や障がいを持った方が住み慣れた家庭で、その人らしく療養生活が送れるように、主治医の指示や連携により健康管理や点滴、排泄ケアなどの療養に関わるすべてのケアを行います。

■信頼・安心感を大切に

訪問看護の関わりでは、一番に信頼関係を大切にしています。ご本人の希望やご家族の要望を丁寧に聞き取り、可能な限りその方の希望や思いに寄り添った関わりができるようにコミュニケーションを大事にしています。

ご本人の望む生活や生きがいのために目標を一緒に立てています。その目標を達成するために、その方に関わる専門職（医師、看護師、薬剤師、ケアマネジャー、ヘルパーなど）が情報を共有することで、ご本人・ご家族の安心に繋がるものだと思っています。

■負担を最小限に、家族の心身ケアも大切なこと

医療ケアは、ご本人やご家族にも不安や負担感があると思います。ケアの方法などの説明には、その気持ちに配慮して、ご本人やご家族が理解できるまで、ひとつずつ丁寧に行っています。

ご家族の支援も大切な関わりです。疲労感、睡眠状況などの健康状態や、困りごとや不安等に対する精神面にも配慮しながら、必要なときは他のサービスの提案をすることもあります。



■自宅で最期を迎えることについて

最近では、がん末期の方へ告知することが増えてきています。私たちは、「最期をどこで迎えたいのか」など、ご本人の希望を、タイミングをみて聞き取りをします。もちろん希望が変わることもありますので、症状の変化に応じて確認します。また、ご家族に対しても、体調の変化に不安な時や急変時など何かあれば「いつでも電話をください」と伝えています。

私たち訪問看護師は、自宅で安心して医療を受けたい人のために寄り添っていきたくと思っています。